

## 令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果のポイント

### 【体力合計点】

- 体力合計点については、令和元年度調査から連続して小・中学校の男女ともに低下した。 ※ 令和2年度は、感染症の影響により調査を中止した。
- 小学校5年から中学校2年に至る3年間の記録の伸びについて、令和4年度までの約10年間で見ると、身体的成長も含め毎年同程度伸びているが、20mシャトルランや上体起こしなどについては近年伸びが鈍化している。

### 【低下の要因】

- 低下の主な要因としては、
  - ① 1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合は、増加しているものの、以前の水準には至っていないこと
  - ② 肥満である児童生徒の増加
  - ③ 朝食欠食、睡眠不足、スクリーンタイム増加※などの生活習慣の変化のほか、新型コロナウイルス感染症の影響により、マスク着用中の激しい運動の自粛なども考えられる。

※スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間

### 【実技テスト種目別の状況】

- 令和3年度と比較し、
  - ・ 「50m走」「20mシャトルラン」中学校の「持久走」「上体起こし」及び「反復横とび」は低下。
  - ・ 「長座体前屈」は向上。
  - ・ 「立ち幅とび」について、小学校は低下、中学校男子は調査開始以来の最高値、女子は低下。
  - ・ 「握力」「ボール投げ」は、ほぼ横ばい。

### 【運動やスポーツに対する意識】

- 運動が好き、と答えた児童生徒は令和3年度より増加したが、以前の水準には戻っていない。体育が楽しい、と答えた児童生徒は令和3年度より増加し、小学校では以前の水準に戻り、中学校では過去最高となっている。

### 【学校及び教育委員会の取組状況】

- 小学校・中学校ともに、前年度の活動として体育の授業以外で体力向上の取組を行った学校が増加したが、以前の水準には戻っていない。
- 幼児の運動促進のための取組を実施している教育委員会の割合は、政令指定都市を除き、低下した。